

13 カメムシ類

1) 供試樹

各試験区において5樹以上を選定する。

2) 散布時期・方法

供試薬剤をカメムシ類の発生時および発生が予想される時期に、7～10日間隔で2～3回（使用基準以内）散布する。

3) 調査方法

調査は散布前と最終散布の7～10日後におこなう。

①カメムシ生息調査

見取りまたはビーティングによる散布前後のカメムシ数を計数する。

②吸汁痕数調査

果実表面の唾液鞘または吸汁痕数を調査する。

唾液鞘は0.5%の酸性フクシンまたはエオシンYで染色すると分かりやすい。

③落果数調査

落果があった場合は、各区の落下果実数を調査する。落下果実は、剥皮してカメムシによる加害であることを確認する。落果がない場合は調査不要。

4) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	カメムシ数／樹		吸汁痕数／果実		落果数／樹		薬害
				散布前	○日後	散布前	○日後	散布前	○日後	
展示区										
対照区										

14 アブラムシ類

1) 供試樹

樹種は何でもよい。

2) 散布時期

発生期に1回散布とする。

3) 調査方法

処理前と処理3日後、7日後、14日後の発生している樹を3～5本選び、1樹から任意の20新梢について、新梢ごとにアブラムシの寄生虫数を調査する。

4) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	生 息 虫 数				薬害
			散布直前	3日後	7日後	14日後	
展示区							
対照区							

【な し】

1 黒斑病、黒星病、赤星病

1) 供試樹

二十世紀が望ましいが、新水でもよい。（黒星病、赤星病の場合は品種は問わない）

2) 散布時期・方法

指定に従う。そうでなければ慣行散布時期とする。

3) 調査方法

①休眠期防除

4月下旬～5月上旬に新葉100枚（発生に応じて増減）を調査し、発病葉率を求める。

②生育期防除

7月上～中旬に葉100枚、果実50～100個（発生に応じて増減）を調査し、発病葉（果）率を求める。

黒斑病、黒星病、赤星病

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査葉(果)数	発 病 率 (%)	葉 害
展示区					
対照区					

2 アブラムシ類

1) 供試樹

品種は問わない。

2) 散布時期・方法

アブラムシ発生時（指定があればそれに従う）

3) 調査方法

調査はアブラムシが発生している樹、3～5本を選定し散布前と散布後3、7、14日後に1新梢当たりの虫数を調査する。

4) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	生 息 虫 数				葉害
			散布直前	3 日後	7 日後	14日後	
展示区							
対照区							

3 ハダニ類

1) 供試樹

品種は問わない。

2) 散布時期・方法

ハダニ発生時。雌成虫と幼若虫の合計が葉当たり3～5頭に達した頃が適当である。

3) 調査方法

任意に3樹を選定し、1樹当たり30葉について雌成虫数を散布直前、散布後3、10、20、40日目に調査する。

4) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	生 息 虫 数					薬害
			散布直前	3日後	10日後	20日後	40日後	
展示区								
対照区								

4 カメムシ類

かんきつのカメムシ類に準じる。

【ぶどう】

1 晚腐病

1) 供試樹

品種は何でもよい。

2) 散布時期

指定に従う。そうでなければ慣行散布時期とする。

3) 調査方法

袋掛け前と収穫期に100果房（発生に応じて増減）を調査し、発病果房率を求める。

4) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査果房数	発 病 果 房 率 (%)		薬害
				袋かけ前(月日)	収穫期(月日)	
展示区						
対照区						

2 黒とう病

1) 供試樹

発生しやすい欧州系の品種が望ましい。

2) 散布時期

指定に従う。そうでなければ慣行散布時期とする。

3) 調査方法

①休眠期防除

5月上～中旬に100果房（発生に応じて増減）を調査し、発病率を求める。

②収穫期に葉100枚および100果房（発生に応じて増減）を調査し、発病葉（果房）率を求める。

4) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査果房数	発病果房率 (%)	薬害
展示区							
対照区							

3 うどんこ病

1) 供試樹

発生しやすい欧州系の品種が望ましい。

2) 散布時期

指定に従う。そうでなければ慣行散布時期とする。

3) 調査方法

袋掛直前に果房100果房を、7月中～下旬に葉100枚を調査し、発病葉（果房）率を求める。

4) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査果房数	発病果房率 (%)	薬害
展示区							
対照区							

4 ベと病

1) 供試樹

発生しやすい欧州系の品種が望ましい。

2) 散布時期

指定に従う。そうでなければ慣行散布時期とする。

3) 調査方法

袋掛直前に、果房100果房を、7月中～下旬に葉100枚を調査し、発病葉（果房）率、発病度を求める。

発病程度別基準

程度	発病程度	指数	発病程度	
			A	B
A : 1/2以上	の顆粒に発病しているもの	5	発病面積率が1/2以上のもの	
B : 1/2～1/4	"	3	" 1/2～1/4 "	
C : 1/4以下	"	1	" 1/4以下 "	
D : 発病がないもの		0	発病がないもの	

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病葉(果房)数})}{5 \times \text{調査葉(果房)数}} \times 100$$

4) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査葉 (果房)率	発病葉 (果房)率(%)	発病程度別葉(果房)数				発病度	薬害
					A	B	C	D		
展示区										
対照区										

5 灰色かび病

- 1) 発生しやすいキャンベルスアーリーやネオマスカット等がよい。
- 2) 散布時期
指定があればそれに従うが、そうでなければ開花直前と落花直後の2回散布とする。
- 3) 調査方法
2回目の散布10~14日後に100花穂を調査し、発病花穂率・発病度を求める。

発病程度別基準

程度	発病程度	指数
A :	穂軸の枯死がみられるもの	7
B :	1/3以上支梗の枯死がみられるもの	6
C :	1/3以下	3
D :	果梗の枯死がみられるもの	1
E :	花の枯死がみられるもの	0

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病果房数})}{7 \times \text{調査果房数}} \times 100$$

4) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査果房 数	発病果房 率(%)	発病程度別果房数					発病度	葉害
					A	B	C	D	E		
展示区											
対照区											

6 チャノキイロアザミウマ

- 1) 供試樹
品種は問わない
- 2) 散布時期
指定があればそれに従うが、そうでなければ落花期~袋掛け直前に2~3回と袋掛け後7月に1回の計3~4回とする。
- 3) 調査方法
袋掛け直前と収穫期に100果房を調査し、被害果房率・被害度を求める。

被害程度別基準 (果粒)

(穗抽)

程度	発病程度	指数	発病程度		指数
			穂軸の被害がかなり激しいもの	中程度のもの	
A : 被害果粒率 1/2以上	7		"	"	6
B : " 1/2~1/4	5		"	"	3
C : " 1/4以下	3		"	"	1
D : 被害果粒がないもの	1		"	"	0
E : 花の枯死がみられるもの	0				

4) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査果房 数	被害果房率(%)		被 害 度		葉害
				散布前	○日後	散布前	○日後	
展示区								
対照区								

7 アブラムシ類 ナシに準じる。